

茨城キリスト教大学大学院文学研究科概要・募集人員および事前相談

文学研究科は、開設当初から少人数教育を大事にし、院生の希望やニーズに合わせたきめ細かな指導を特色とし、教育を行ってきました。2023年度からは、専攻科名を英語英米文学専攻から英語コミュニケーション専攻に変更し、英語文学・文化、英語教育学、英語学の3つの分野と関連科目群から編成される教育課程に加えて、研究を進める上で不可欠である英語コミュニケーションスキルの向上にも重点を置いています。

制度上においては、現職教員等の社会人の方々が学びやすいように、標準修業年限である2年のほかに、3年間の長期履修制度も実施してきました。時には勤務時間に合わせた時間割の配慮も行っています。また、留学制度においても、セメスター留学(約6か月間)とダブル・セメスター留学(約1年間)に加え、1年間で英語教育学の修了証(TESOL Certificate)を取得できるプログラムも開始しました。

最後に、現時点では大学院にまったく縁はないと思っている学部生のみなさん、大学院に来ると人生がよい方向に変わるかもしれません。仕事をしながら知識を深めたいとおられる社会人みなさま、人生観が深まるかもしれません。どのような方にも「入学してよかった」と思える教育を目指したいと思っておりますので、多くの方々にぜひ学んでいただきたいと願っております。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

英語コミュニケーション専攻

英語コミュニケーション専攻では、別に定める教育課程方針に基づく学修を果たし、学位授与方針に掲げる諸能力をもった人を育成するために、本専攻への入学者として次の事項を満たす方を選考し、受け入れます。

<建学理念>

大学院入学までに、実践的ボランティアの萌芽を確認することができ、本研究科における学修によってその深化が期待できる人。

キリスト教精神における公正性の理解に努め、今後の人生において公正であることに努めようとする意志のある人。

<学力の3要素>

本専攻で学修するために、事前に必要となる知識・技能を、入学までの学びにおいて身につけている人。

本専攻で学修するために、事前に必要となる思考力・判断力・表現力を、入学までの学びや活動によって身につけている人。

1. 過去の英語文学作品を鑑賞し、現代における文学の意味と価値を探究する能力と意欲のある人
2. 最新の言語理論に基づき、英語の仕組みを探究することを通じて、思考の緻密さの向上を目指す人
3. 英語教育における高度専門的能力を修得し、地域の英語教育に寄与することを目指す人
4. 英語を通しての学術研究・調査・研究交流に意欲のある人

本研究科設置の趣旨を活かす措置

現代社会の要請と地域社会の期待に応える開かれた大学院を目指すという設置の趣旨を生かすため、本研究科はその運営上、以下のような措置を講じています。

〔1〕昼夜間開講制

学部からの進学者だけでなく、広く社会人のリカレント、リフレッシュメントを対象とする教育・研究の機関となるため、昼夜間開講制をとっています。時間割は、毎年4月上旬の専攻別ガイダンスで、受講者と相談の上、調整しています。授業は、月曜日から土曜日(場合によっては集中)と夏期等休業中に集中講義の形で行われています。一部の科目において、いわゆる「オンライン授業」に代表される多様なメディアを利用した授業を導入しています。特に、学生が就労している場合には、担当教授との相談の上、一部の授業を対面ではなくオンラインで受講することができます。夜間の場合は6時限目(17:40～)に行われています。

〔2〕長期履修制度

職業を有している等の事情により、定められた修業年限で大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、標準修業年限2年を超え、3年間で修学できる長期履修制度を導入しています。詳細は、6ページをご覧ください。

〔3〕一般入試と社会人入試の別枠合格

入学者は、40%程度を学部からの進学者、60%程度をリフレッシュメントとリカレントのために入学する社会人を予定しています。このことを実現するために、学部からの進学者(一般入学試験)と社会人(社会人入学試験)とを別枠で受け入れます。

〔4〕在学留学(セメスター留学)制度

修士課程在学期間中、本学と提携関係にあるハワイパシフィック大学での英語教育プログラムに、半年間・セメスター留学または1年間・ダブルセメスター留学し、授業を受けることができる制度です。いずれの留学も、留学期間は在学期間に含まれます。特に優れた留学生は留学期間中、学納金の納入が免除される場合があります。一定レベル以上の英語力(TOEFLによる)が問われます。

希望者は、原則、各出願期間開始前日〔Ⅰ期：2026年9月30日(水)／Ⅱ期：2027年2月12日(金)〕までに相談を済ませてください。

〔5〕学部教職課程履修について

学部で履修途中だった教育職員免許状取得等のために、大学院生が学部の科目を履修する場合、その分の学納金は徴収しません。文学研究科の学生で、大学院修了に必要な30単位を修得し修士論文だけを残して3年目または4年目に在学する場合も同様に、学部の科目を履修する際、その分の学納金は徴収しません。

現職教員の方は、本学の学部教職課程で単位を修得することで、異校種の免許状を取得することができます。お持ちの免許状によって必要単位数が異なります。

いずれの場合も、「大学院本来の教育・研究に支障がないこと」という原則を守って、履修計画を立てることになります。希望者は、可否について原則、各出願期間開始前日〔Ⅰ期：2026年9月30日(水)／Ⅱ期：2027年2月12日(金)〕までに相談を済ませてください。

〔6〕納入金について

履修期間(2年間、3年間)により納入金が異なります。詳細は、17ページをご覧ください。

入学定員・収容定員

研 究 科	専 攻	入学定員	収容定員
文学研究科(修士課程)	英語コミュニケーション専攻	10名	20名

修業年限

2年履修、3年履修を選択することができます。(4年までは在学可能)

修業年限は、担当教員と事前相談の上、出願時に選択しますが、1年次後期に1回限り変更が可能です。

課程の修了および学位

所定の科目の単位を30単位以上修得し、かつ修士論文の審査に合格した者に、修士(文学)の学位を授与します。

募集人員

専 攻	募集人員	試 験 区 分
英語コミュニケーション専攻	10名	Ⅰ期一般入学試験・社会人入学試験 Ⅱ期一般入学試験・社会人入学試験

募集枠(一般入学試験・社会人入学試験)

募集人員の40%程度を一般入学試験で、募集人員の60%程度を社会人入学試験で受け入れます。

事前相談

研究内容・履修期間等について必ず担当教員による事前相談を行うこととします。出願希望者は入試広報部にお問い合わせいただき、Ⅰ期試験に出願する場合は2026年9月30日(水)まで、Ⅱ期試験に出願する場合は2027年2月12日(金)までに事前相談を済ませてください。特に以下の場合には注意が必要です。

※Ⅱ期試験を出願する方は、「英語」試験の免除資格を有するかどうかの事前相談を時間的余裕をもって申し出てください。(詳細は15ページ参照)

※心身に持病・障がいのある方は、時間的余裕をもってご相談ください。本学が必要と判断した場合には、出願時に健康診断書を提出いただく場合があります。